

# 学会記事

## 日本地質学会2017年度 第3回理事会議事録

日時：2017年12月2日（土）14:00-17:00

会場：北とびあ 901会議室  
（東京都北区王子1-1）

出席役員 理事（32名）：天野一男 安藤寿男  
市川八州夫 大藤 茂 岡田 誠 狩野  
彰宏 川端清司 川辺文久 小宮 剛  
斎藤 眞 佐々木和彦 坂口有人 沢田  
健 菖蒲幸男 杉田律子 田村嘉之 辻  
森 樹 内藤一樹 中澤 努 仲谷英  
夫 奈良正和 西 弘嗣 楡井 久 保  
柳康一 平田大二 廣木義久 星 博幸  
松田達生 松田博貴 矢島道子 山田泰  
広 渡部芳夫

監事（1名）：山本正司

事務局：橋辺菊恵

欠席役員 理事（12名）：有馬 眞 井龍康文  
緒方信一 笠間友博 亀尾浩司 清川昌  
一 澤口 隆 竹下 徹 田村芳彦 福  
富幹男 三田村宗樹 向山 栄

監事（1名）：藤本光一郎

\* 成立要件：理事総数44名の過半数23名 本  
日の出席者 32名で本理事会は成立。

\* 議決：出席者の過半数 17名

\* 開催にあたって書記2名を選出：川端・奈  
良

### 報告事項

#### 1. 執行理事会報告（斎藤常務理事）

- ・ 斎藤常務理事より2017年度第4～第6回執行理事会についての報告があった。
- ・ 関連して小宮理事より「こどもゆめ基金」にともなうWeb教材企画の進行状況について報告があった。
- ・ 会員動向：前回理事会以降に逝去された正会員3名の氏名が報告され、黙祷を捧げた。

#### 2. 理事及び委員会等報告

##### 1) 行事委員会（岡田理事）

- ・ 愛媛大会について、台風にもなう中止日程があったにもかかわらず、763名の参加があり黒字運営となったことの報告があった。
- ・ 札幌大会は、会場及び宿舍の予約を勘案して平日となるが2018年9月5～7日で開催し、連携協定を結んでいる海外5学会（イギリス、韓国、タイ、モンゴル、台湾）の代表を招いたシンポジウムを行うことなどが報告された。小さなE.S.のつどいについては金曜開催を予定している。
- ・ 山口大会では、脇田会員を実行委員長、坂口理事を事務局長とすること、宿舍予約の都合と鉱物科学会との調整の必要から日曜日開始の3日間の日程で調整中であることが報告された。

##### 2) 地質学雑誌編集委員会（中澤理事）

- ・ 投稿数の変遷について、2006年の地質学論

集終了、2015年の巡検案内書組み入れ、2016年の125周年特集号投稿開始といった対処を施したものの投稿数は漸減を続け、2017年の通常論文数は過去最低レベルにあることが報告され、この状況に対して通常論文投稿を促す必要が大きいこと、このままでは月刊誌としての維持が危機的となること、出版形態の変更の可能性も考慮する段階かもしれない、との認識が示された。

- ・ 125周年特集号について編集状況が示され、とりまとめに遅れのみられる号の世話人に対して一層のお願いをしている旨の報告があった。
  - ・ アイランドアーク編集委員会（田村理事代斎藤常務理事）：特集号や一般原稿の編集状況が説明されるとともに、「Issue 1」を「Free sample issue」としていた従来の制度を改め、過去2年間に引用件数が高かった論文の上位10編をオープンアクセス化し、注目論文の宣伝、IFの向上、著者へのインセンティブとすることが報告された。
- #### 3) 各賞選考委員会報告（星理事）
- ・ 学会賞：1件、国際賞：3件、小澤賞・柵山賞：3件、研究奨励賞：5件、論文賞：3件、小藤文次郎賞：3件、学会表彰：1件の応募があったこと、現時点では各賞の検討を開始し、3月までに結果をとりまとめ、4月の理事会で報告の予定であること、との報告があった。研究奨励賞は若手が対象であるが、他学会に比して受賞者が少ない感じがするとの意見があり、多くの推薦を欲しいということであった。
- #### 4) 法務委員会報告（山路委員長代斎藤常務理事）
- ・ 斎藤常務理事から、旅行業法の厳格な適用がされている中、「法務委員会の委嘱により、高木弁護士から観光庁と東京都に、旅行業法の中で学会巡検の位置づけについて問い合わせをしていただき、現状の巡検のように営利性がなければ（収支がトントン）旅行業法の適用外と見られる旨の回答を得た」との報告があった。支部で実施する巡検も同様である。なお、今後、高木弁護士と法務委員会とで細部を詰めていく。
- #### 5) 125周年記念事業実行委員会（矢島理事）
- ・ 2018年5月18日に記念式典、祝賀会を開催すること、事業の進行・検討状況、記念式典の検討状況、収支の状況、また学会に功労のあった4個人、6団体を表彰する計画である事などの報告があった。
- #### 6) ジオパーク支援委員会（天野理事）
- ・ あるジオパークにおける地質調査においてジオパーク関係者との間でトラブルが生じたことや、世界ジオパークがユネスコの所掌となったことに伴い、学術的担保が今まで以上に求められるようになったこと等を受け、愛媛大会でのランチョンミーティング等で議論を重ね、ジオパークと研究

者とが、互いに助け合いつつ共存できる仕組みを構築する方向で調整をする事になったとの報告があった。JGNに自然（地質）保護のWGが立ち上がっているので、地質学会ジオパーク支援委員会からもメンバーに入って検討に加わる（当面は天野委員長）。

### 審議事項

#### 1. 山本副会長逝去に伴う件

- ・ 山本副会長が逝去されたが、定款32条に照らすと理事や執行理事を補充する必要性はない。副会長の補充については、代表理事不在という事態ではないので、現体制で乗り切りたいとの提案がなされ、了承された。
- ・ 代表理事に万一のことがあった場合に備え、後任の序列をあらかじめ決めるなどの案が出され今後の対応策の検討を継続することとなった。

#### 2. 総会の日程について

- ・ 総会日程を2018年5月19日としたいとの提案がなされ、了承された。

#### 3. 名誉会員推薦委員会委員の選出について、理事会推薦委員1名の選出

- ・ 名誉会員推薦委員会の委員長を故山本副会長から松田博貴理事に移譲する、との提案がなされ、了承された。名誉会員推薦委員会規則により下記の委員を選出し、全会一致で承認された。

階層別委員4名（執行理事会の推薦）：

官公庁：加藤碩一、小中高教員：会田信行、会社：足立勝治、大学：木村 学

職責委員（各支部長）7名：

竹下徹、柴正敏、有馬眞、大藤茂、三田村宗樹、石塚英男、仲谷英夫

理事会推薦委員（1名）として西理事が選出された。

#### 4. 創立125周年記念事業について

- ・ 矢島理事から、記念事業での4個人、6団体の表彰について提案があり、了承された。個人4名、団体6団体を記念式典に招待することになる。

#### 5. 『地質学雑誌オープンファイル掲載細則』の改正について

- ・ 中澤理事から、今後、動画や地理空間情報などもオープンファイルに含められる様、細則3を追加し、あわせて、関連する項目や表現を修正することが提案され、了承された

#### 6. 2017年度事業経過報告・2018年度事業計画骨子（案）

- ・ 渡部代表理事から、「2017年度事業経過報告」ならびに「2018年度事業計画骨子（案）」をあわせて説明があり、骨子（案）として了承された。
- ・ 125周年記念事業で支部活動も活発に行って欲しいとの意見があった。
- ・ 地質学雑誌欠号の可能性もあるので対応策を考える必要がある、SNSサービス「ちーとも」の現況はどうか、「地震火山サマ

ースクール」への支援形態はどうか、といった質問があり、これに対し「ちーとも」の現状やサマースクールについての説明があった。また2017年事業経過報告の中で愛媛大会の際に台風により中止と記述されている市民講演会は、四国支部総会にあわせて12月17日に開催予定であることが紹介された。

これらの意見をもとに4月の理事会に再提案されて、総会に提案する最終案とする。

以上

2018年1月20日  
一般社団法人日本地質学会  
理事会議長 向山 栄  
理事会副議長 佐々木和彦  
代表理事：会長 渡部芳夫  
(以下理事氏名省略)

---